

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツト そよ風		
事業所名	嵯峨野センターそよ風 1F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	平成25年12月15日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2670700349-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がゆっくりと楽しく過ごせられ、自分らしさを出せるように支援をしています。当センターは自然に囲まれており、季節感に合ったイベントなどがあり、利用者様や職員共に一緒に楽しんでいます。理念である「穏やかに安らぎのある暮らし、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」を大切にしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、「穏やかに安らぎのある暮らし、心遣いと気配りのある生活、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」と理念に掲げ、会議等でケアの方向性を考える時に理念に立ち戻り、利用者本位の暮らしを支援することに努めています。開設後11年が過ぎ利用者の重度化がみられてきていますが、医療との連携を密にし、車いすを増やしたり手すりの設置、シャワーチェアの購入等の設備の充実に取り組んだり、家族や協力医の協力も得て重度の利用者への支援に取り組んでいます。また、日タリーダーが中心となり職員間はチームワーク良く、利用者との日々の会話を大切に、これまで楽しんできたハーモニカや裁縫などの趣味が継続できるようにしたり、夕食時の飲酒などを楽しめるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に管理者と職員で理念を唱和し、意識を高め共通認識をしてサービスやケアの向上につながる様、日々努めている。	ホームの理念は利用者本位の暮らしを支援することを基本に作られており、会議でケアの方向性を考える時に理念に立ち戻っています。各フロアに掲示し毎日唱和することで意識付け、利用者が穏やかで自由に暮らせるような支援に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内や自治会の参加をしており、地域主催の催しに紹介をして頂いている。また当センター主催の文化祭などのイベントに地域の方をお誘いし、地域の方とのふれあいを大切にして交流を図る取り組みをしている。	自治会の組長を担っており、会合に参加し地域の方にホームのことを知ってもらい、相談を受ける関係が作られてきています。敬老会等の行事に参加したり、地域の祭りにはホーム前に神輿や獅子舞が来てくれるなど、利用者に楽しんでもらっています。また、回覧板で案内しホームの文化祭に来てもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開き、参加して頂いて、認知症の方の理解や正しい知識を少しでも多くの方へ知って頂くように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の行事、現状報告しています。地域の方、他施設の方との意見交換などをしたりして、参考にしサービスの向上につながる様に努めています。	会議には社会福祉協議会会長や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、隔月に開催しています。ホームの活動報告や評価を行い、参加者から地域の情報を得たり、利用者の支援方法や家族の対応等についてアドバイスをもらい、運営やサービスに反映しています。	家族の参加が得られにくい状況であり課題としています。気軽に参加してもらうため会議への理解が得られるよう取り組んだり、開催日時の配慮等を工夫されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議があり、開催される場所として協力し、参加する事で地域包括の方と連絡を密に取り合っている。	運営推進会議の議事録を直接区役所に届け、近況報告をしてホームの状況を知ってもらっています。役所が主催するケアマネ連絡会に2~3か月に1回参加し、情報交換できるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上玄関の施錠はやむ得ずオートロックになっているが、各階職員が連絡を取ることによって利用者様は自由に行き来しておられる。以前は4点柵をしていたが、利用者様の身体状況も変わったり身体拘束をしない工夫も出来ているのでゼロになっている。	年に1回は身体拘束についての勉強会を行い、毎月のリーダー会議で実際のケアが拘束に繋がっていないか現状確認を行っています。家族の希望もあり4点柵を行っていましたが、家族への説明を繰り返し安全な移動を支援するためのセンサーを活用し改善しています。玄関の鍵はかけていますが、利用者が外に出たい様子があれば一緒に出かけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の声かけなどに、虐待含め暴言がないかを常に注意を払っている。ミーティングで虐待にならぬような、話し合いをしている。管理者による研修を開催し、より深い内容を話し合いをして再確認する機会を作り虐待防止に努めている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に、利用されている利用者様がおられるので、研修などに参加して知識を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には説明し家族の理解、納得のうえ同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名でアンケートをとったり家族会を開催したり、来訪された時など意見や要望をお聞きしているので、反映させるように努めている。	日々の面会時や年に1回の家族会などで、家族から意見や要望を聞いています。家族会では重度化してもできる限り対応してもらいたいとの意見があり、医療との連携を強化し、車いすを増やしたり手すりの設置、シャワーチェアの購入等、設備の充実に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、全体会議があり、管理者と職員が参加し現状報告、運営報告、意見交換をする時間を設けてます。意見などが出ますが、すべて反映されない事があると感じている。	毎月全ユニット合同で行われる会議では、ヒヤリハット報告書の書式変更や物品管理について等の多くの意見が出され、業務や運営に反映しています。年に1回個別面談を行っていますが、日々リーダーが中心となり職員とコミュニケーションを図り、意見や思いを聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員がやりがいを持って仕事ができる環境を作っている。また一定の生活水準が保てるような給与体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1人行き届いていない部分があるが、職員が能力を發揮できるような研修があれば参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	委員会や研修を行っているが、同じメンバーが参加している事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様から想いなどをお聞きし、利用後も関わりを持ち、信頼関係を築いている。可能な限り要望を取り入れ、職員間でも情報交換を行い、安心されるような生活環境ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者やリーダーが家族様の要望をお聞きし、お応えできるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを開き、利用者様、家族様のニーズを尊重して、その時点で最も必要としているサービスができるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりを大切にし、できることはご自分でして頂き、できないことは一緒に行っています。利用者様からいろいろと、教えて頂く事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	センターでの催しがあれば、家族様に声をかけ参加協力を依頼し、また面会時に、いろいろと話す機会もあるので、その時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご親戚、ご友人の方が、面会の際には居室やリビングにてゆったりとした時間を過ごして頂くように心がけている。	友人の来訪時にゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮したり、年賀状のやり取りができるよう支援しています。家族の協力を得て馴染みの美容院に行ったり、ドライブを兼ねて自宅周辺に出かけています。利用者にとって懐かしい人や場所を聞けるよう、日々の会話を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、職員の中でも意見を共有しながら利用者様同士が楽しく生活ができるように努めている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、そよ風のイベントなどにお誘いできるように関係を途切れるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご利用者様との関係を作り、職員間で話し合い、ご利用者様にあった暮らし方や希望を考え、意向に沿えるように心がけている。	入居の時には利用者や家族から直接今までの暮らし方や希望等を聞いています。入居後は職員が日々の関わりの中で得られた情報を記録したり、カンファレンスで話し合い、利用者の意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様からお話をお聞きしたり、家族様からの情報などをお聞きして、少しでも慣れ親しんだ生活を送って頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人との接する時間を大切に、職員共に連携をとり、ご利用者様の有する能力、生活状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状態を把握し、変化などがあればカンファレンスを開き、家族様の要望などを取り入れ、ケアプランの見直しを行っています。	利用者の思いや家族の意向、アセスメントを基にカンファレンスで話し合い、介護計画を作成しています。初回は1ヶ月程でホームでの暮らしに合わせて見直し、以降は3~4ヶ月毎にモニタリング・評価を行い、見直しています。見直しにあたっては、家族の意向を聞き、受診時の医療情報も加味しています。変化のあった利用者には、随時カンファレンスで話し合い見直しに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は経過記録や申し送りノートなどを活用して、情報を共有し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全館ひとつになって、意見などを出し合い、よりよいサービスに繋がるように努めている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各機関との連携を図り、支援させてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携協力病院、提携歯科に往診をしてもらっている。また、ご家族様やご本人様が納得された医師に診てもらっている方もおられる。	以前のかかりつけ医の継続も可能であることを説明し、継続している方もいます。協力医も2か所から選ぶことができ、其々の医療機関から往診に来てもらっています。毎週訪問看護師による健康管理を受け、希望に応じて月に2回往診歯科も受けることが可能です。夜間や緊急時には、協力医又は訪問看護に連絡・相談できる体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携協力病院の看護師に往診や電話にて、相談や指示をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携協力病院とも、関わりを大切に、入院された際でも連絡を取ったりお見舞いなどに行き情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、家族様の意向を踏まえ出来る限り希望に沿えるよう努めているが、重度化や終末期の方針などについては、話し合いの場も作れておらず、センターとして共有できていない。	重度化や終末期の対応指針を入居時に説明し、家族の希望と協力により出来る限り支援しています。重度化や病状の変化に伴い、医師の判断や家族の希望を聞きながら、話し合いを重ね対応するとともに、終末期ケアについて職員研修も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を通じて実践力を身に付けるように努めているが、全員が訓練には参加できておらず、身に付いているとはいえない。全員が参加できる体制が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消防訓練を行っている。	年に2回避難訓練を行い、内1回は消防署の立会いの下避難誘導をはじめ火災発生に伴う対応について訓練を実施しています。他県のグループホーム火災を受け消防署の訪問があったり、地域の訓練への参加を期に消防団にホームを見に来てもらうなど、地域との関係作りに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇については常に意識をし、敬意を込めた言葉かけや対応をしている。	利用者は人生の先輩であり対応は敬語を基本とし目線を合わせ、馴れ馴れしくなりすぎないように、又失礼のないよう心がけています。ミーティング時に接遇について話をしたり、不適切な対応が見られた時には職員間で注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の生活ペースに合わせ、ご本人様の意思を尊重したケアをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が送れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、出張美容室に来て頂いている。服を選ぶ楽しみやその人らしい身だしなみやおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には盛り付けや色彩に工夫したりして、食事の楽しみを感じて頂けるようにしている。利用者様と一緒に準備をする事は難しくなっている	フロア毎に発注した食材が週に3回届き、その日の担当者が献立を立てています。利用者が重度の方も多い状況ですが、盛り付けや大根おろし、食器拭き等のできる事に携わってもらっています。食事の介助をしながら、職員も同じものを食べ会話を楽しみ和やかな食事の時間となっています。習慣や楽しみを大切にビールを飲む方がいたり、月に3~4回の出前、誕生日には個別に外食に出かける等の支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の栄養摂取状況を把握している。水分、食事摂取量を記録して、身体状況に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、入床前には全員行っている時もあるが出来ない時もある。義歯されている方は、1日1回入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録することで、排泄のリズムを把握している。パターンを把握し排泄誘導を行い、トイレでの排泄に努め、自立にむけた支援を行っている。	利用者の排泄記録からパターンを把握し個々のタイミングでトイレへ行けるように支援しています。日々の支援の結果、失敗が減ったり無くなり、褥瘡が改善したり紙パンツから布の下着に変えるなど、自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服もして頂いているが、食物繊維が多い物や水分、ヨーグルトを摂取して頂いたり、運動などを取り入れ便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は日中に限られているが、ご利用者様の意向や習慣を大事にし、健康状況に合わせた入浴支援を行っている。	毎日午後から16時ぐらいの時間を目途に、週に2回の入浴を支援しています。個々の利用者の好みの湯温や時間を把握し、自身でシャンプーやタオルを持参される方もおり、ゆっくりとその人らしく入浴できるよう配慮しています。季節のゆず湯を楽しんだり、冬は広い浴室や脱衣場を暖め心地良い入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調や状況に応じた休息、入床への声かけを行っている。またご自身から思いを伝えられない方は、職員が表情や思いを察知し、リードしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬剤情報を回覧し理解している。ご利用者様の日々の行動や病状の変化については情報共有し、医師や看護師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、散歩、会話、個々の趣味などを活かし張り合いや喜びのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行が出来る方は少しでも散歩にお誘いしたり、無理な方は外気浴などをして外の景色や雰囲気を楽しんで頂いているが、利用者様のADLが下がってきておられなかなか外出の支援が難しくなっている。	気候の良い時には散歩に出かけたり、緑の多いホームの玄関先に出て外気浴をしています。時にはドライブや買い物に出かけています。季節の花見や紅葉狩り、初詣、祭り等も楽しんでもらっています。今後、家族と一緒に外出する機会を増やしたり、積極的に外出を支援していきたいと考えています。	

嵯峨野ケアセンターそよ風(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会がないが、レクリエーションやイベントなど通じてお金を使用する機会や場面を設定し、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は電話の利用の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がある飾り付けや、生花を置いたり香りなども取り入れ、環境に準じて快適に暮らせるように努めている。	各フロア毎に生花や貼り絵、正月飾り等の季節を感じられる飾り付けや、利用者の相性等を考えテーブルを配置するなど、和やかに過ごせるよう配慮しています。また、エレベーター前にスペースがあり、読書やエレクトーン等の趣味を楽しめるスペースを作っています。日々の清掃や加湿に気を配り、居心地の良い空間作りにも努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士を、一緒に席に座って頂いたりソファを設置したり、工夫をしている。共有空間では時々席替えをなどを行い、快適に過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物や家具を持ってきて頂いている。利用者様が安心して居心地よく過ごして頂けるように工夫している。	全室南向きで明るい居室には、自宅で使用していた馴染みの物を持って来てもらうよう説明し、テレビやタンス、机、姿見鏡等を配置し、安心して過ごせるようにしています。家族や思いでの写真を飾ったり、写経の道具を置くなど、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになった建物になっている。文字や絵で場所を表示したり、簡単な案内を作成し自立した生活が送れるように支援している。		